

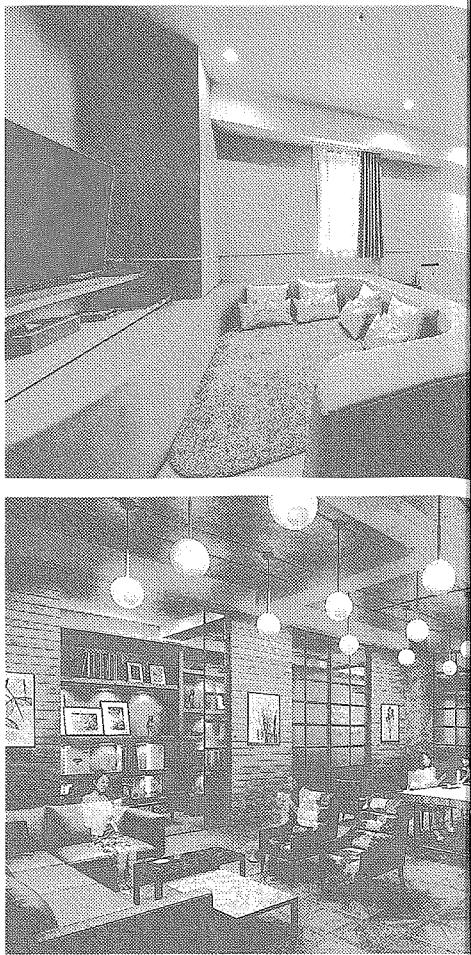
先日、縁があり寺院にて茶道や写経を体験する機会をいたしました。そのとき印象に残ったのは、「心が鎮まる」という感覚です。

また、このような非日常の機会以外でも、「電車内で本を夢中になつて読んでいて、乗り過こしてしまった」「スポーツやゲームに夢中で、気がついたら口が暮れていった」といった、体験が誰にでもあるのではないで

何かの活動に集中していく時間が経つのを忘れるほどめり込んでいる状態のことを、米国の著名な心理学者であるチクセントミハイは「フロー」と言っています。この状態になると、生産性が高くなり、幸せを感じたり、驚くほど短時間に物事が上達したりします。ビジネスシーンに当てはめれば、一人ひとりが充実感や幸福感を抱きながら仕

経営者ための マーケティング心理学

8



料サードオーナーを実施する。
マネジメント（東京）は2020年に名古屋市中村区
名駅5に「ミッドタウンスタイル

何かに集中して時を忘れる

さればこの状態を引き起
じすいことがであるのでし
ょうか? 博士は以下の
6つの条件を挙げていま
す。

①明確なゴールや目標
の存在②その目標は能力
に比べて適度なチャレン
ン

フローを起こすには、
ゴールに向かうチャレン
ジが重要です。いつもぬ
るま湯に浸かっているよ
うな状態ではフローは起
こりません。逆に、自分
の能力よりも高すぎる場
合も心理的にプラスに働
く

生産性が高くなり物事が上達

日、クリエイティブラウンジ「クリばこ」(名古屋市中村区名駅)で名駅南地区の活性化に向けた共同研究の概要を発表した。

広小路通りから南側の同地区では、2016年に劇団四季劇場が開業。開設効果で子ども連れの若い女性の往来が増えた。その一方、カフェなどおしゃれな店が

目かない」とも分かっています。つまり、フローが起きたやすいのは、持つている能力よりも少し高いレベルにチャレンジする時です。しかも、自分の得意な能力、いわば強みを生かす時、人は工夫やます。日本の伝統文化は、実在に細心の注意を向けている。指す日本の伝統文化は、

「無心」「無我」の境を田代と一体化をしていくといふ。美しい周囲の環境と一体化をしていくといふ。美しい周囲の環境と一体化をしていくといふ。うチャレンジの積み重ねであり、適切な修練の場であると言えます。



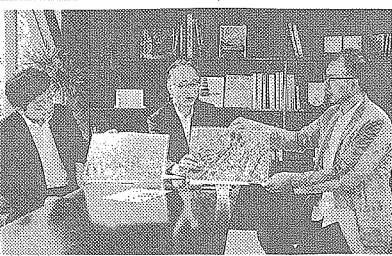
名駅南地区の発展を目指す3者の関係

し知恵を絞ることで成長していくことを、今一度日本の伝統文化に触れ、フローラの体験との関係性を体感してみてはいかがでしょうか。

■加藤滋樹 プレジデント「ノーハークニケーション・アン・アナリスト」

■毎週土曜日に掲載 =

■頭に述べた日本文化の体験について、チクセンぬよトミハイ博士はフローを引き起すためにとても重要なものがあると述べ、茶道や弓道、禪などの重要性を伝えていきます。



名駅南地区の発展を目指す3者の関係者（右が名工大大学院の伊藤准教授）